

異文化理解サロン「京都府のALTが語る日本の英語教育」

「違いで驚き、びっくりする」社会より「違いを受け入れる・活かす」と言う社会への転換を目指し、世界の様々な国の文化、習慣、現状、課題等について話を聞き、異文化に対する偏見をなくし、身近に触れ合う機会を府民に提供します。

外国人住民を講師として招き、自国の文化、社会、習慣、話題等についての講演及び交流・質疑応答・意見交換を通して異文化への理解を高め、地域の多文化共生に関心を持ってもらい、推進します。

日時： 2014年6月15日(日) 14:00~16:30

講師：

- ・Erin Noxon (エリン・ノクソン) 京都府立嵯峨野高等学校 ALT アメリカ出身
- ・Pablo Lozada (パブロ・ロザダ) 京都府立綾部高等学校 ALT メキシコ出身、アメリカ育ち
- ・Kelly Caballero (ケリー・カバイエーロ) 京都府立京都すばる高等学校 ALT アメリカ出身

内容：

グローバル化の影響で世界の各地で必要となっていく英語。日本でも、社会の国際化、2020年のオリンピック等で仕事をはじめ、生活の中で段々重要なスキルになっていくでしょう。

そこで今回は京都府立高校のALT(外国語指導助手)の3人がそれぞれの経験をもとに、日本の英語教育における現状、課題、教育理論や教育学などについて語りました。

外国から見た日本の英語教育、現場からの生の声が聞ける良い機会でした。

- ・「日本とアメリカにおける教育学」エリン・ノクソン氏
- ・「教育方法を学ぶ：教え方、学習、教室環境を考え直す」パブロ・ロザダ氏
- ・「京都すばる高校での英語教育」ケリー・カバイエーロ氏

本講座を英語で行いました。

会場： 京都府国際センター (京都駅ビル9F)

対象： 英語中級者以上、英語教育、国際交流に興味のある方

参加者： 38名

主催： (公財)京都府国際センター



アンケート結果：

- * 3人のALT先生達のそれぞれの異なる視点からにおける教育現場の様子のお話を聞いた。
- * それぞれの切り口から経験に基づいたお話で興味深く聞かせていただきました。
- * とても興味深い内容を面白おかしく話して下さって、3時間があっという間でした。
- * 3人ともそれぞれにとっても興味深くて楽しい発表でした。今後の自分の仕事に生かせそうです。

講座の様子：

